



パシフィックシステム株式会社

パシフィックシステム株式会社 2024年3月期 決算説明会

2024年6月21日

- **企業概要**
- **2024年3月期 決算概況**
- **2025年3月期 業績予想**
- **長期ビジョンと26中期経営計画の概要**
- **トピックス（当社の画像・AIへの取り組み
年表）**

企業概要

社名	パシフィックシステム株式会社
本社	埼玉県さいたま市桜区田島8丁目4番19号
設立	1980年8月
資本金	7億77百万円
従業員	638名(連結：2024年3月末)
上場先	東京証券取引所 スタンダード (証券コード 3847)
事業内容	製造業、流通業、金融業等向けの情報サービス事業
連結子会社	株式会社システムベース 岩手県内の企業及び自治体向けを中心に当社と 連携した情報サービス事業を行う

沿革

西暦（和暦）	月	概要
1980年（昭和55年）	8月	秩父セメント(株)(現太平洋セメント(株))システム部が分離独立し、東京都文京区にシステム総合開発(株)(現当社)を設立。情報サービス事業を開始。
1983年（昭和58年）	6月	秩父セメント(株)の子会社で情報サービス事業を営む(株)ジェスと合併。
	9月	熊谷事業所、営業所(現熊谷センター)を埼玉県熊谷市に開設。
1988年（昭和63年）	12月	通商産業省(現経済産業省)システムインテグレータ登録・認可。
1989年（昭和64年）	6月	秩父セメント(株)の子会社で計量制御システム、生産管理システム等の製造販売を営む(株)ジェムと合併。
1991年（平成3年）	8月	大阪支社(現西日本支社)を大阪府大阪市淀川区に開設。
	9月	日本初のGPSを利用した車両動態監視システムの販売開始。
1996年（平成8年）	4月	秩父小野田(株)(現太平洋セメント(株))の子会社で情報サービス事業を営む(株)オークスの営業全部を譲り受け。
1999年（平成11年）	10月	太平洋セメント(株)の子会社で情報サービス事業を営む(株)アイシスと合併し、商号をパシフィックシステム(株)に変更。
2002年（平成14年）	7月	当社の子会社で計測機器、制御機器等の開発、販売等を営む(株)エステックスと、当社の関係会社で情報サービス事業を営むエス・エス・ケー販売(株)とが合併し、パシフィックテクノス(株)(当社連結子会社)が発足。生コンクリート関連情報サービス事業を同社に集約。
2004年（平成16年）	9月	本社を東京都中央区に移転。

沿革

西暦（和暦）	月	概要
2005年（平成17年）	11月	ISO14001(環境ISO)の認証を取得。
2007年（平成19年）	4月	ジャスダック証券取引市場（現東京証券取引所 JASDAQ市場）へ株式を上場。
	10月	(株)システムベース株式取得により子会社化。
	12月	西日本支社を大阪府大阪市西区へ移転。
2009年（平成21年）	3月	ISO9001(品質ISO)の認証を取得。
2010年（平成22年）	1月	(株)ソーシャルネットから事業を譲り受け、中部センター(愛知県名古屋市中区)を開設。
2011年（平成23年）	1月	東京オフィスを東京都港区に開設。
	2月	子会社パシフィックテクノス(株)と合併。
		本社を埼玉県さいたま市に移転。
2012年（平成24年）	3月	ISO27001（情報セキュリティISO）の認証を取得。
2017年（平成29年）	8月	東京オフィスを東京都中央区に移転。
2022年（令和4年）	4月	東京証券取引所の市場再編に伴い、スタンダード市場に移行。

事業所展開 (主要顧客対応のためサービス拠点として展開)



当社の事業区分（セグメント）



システム運用・管理等

- ユーザシステムの運用・管理サービス、データセンタ、パソコン教育、保守サービス等

システム販売

- 画像処理システムや生コンクリート業界向けシステム、医療システム等のシステム商品の販売
- ネットワーク構築等のインフラサービス

ソフトウェア開発

- 製造業・流通業・金融業等幅広くアプリケーションシステムの受託開発業務
- 製造業向けにERP事業のコンサルとシステム開発

機器等販売

- パソコン、サーバ及び周辺機器とパッケージソフトウェア等の仕入・販売



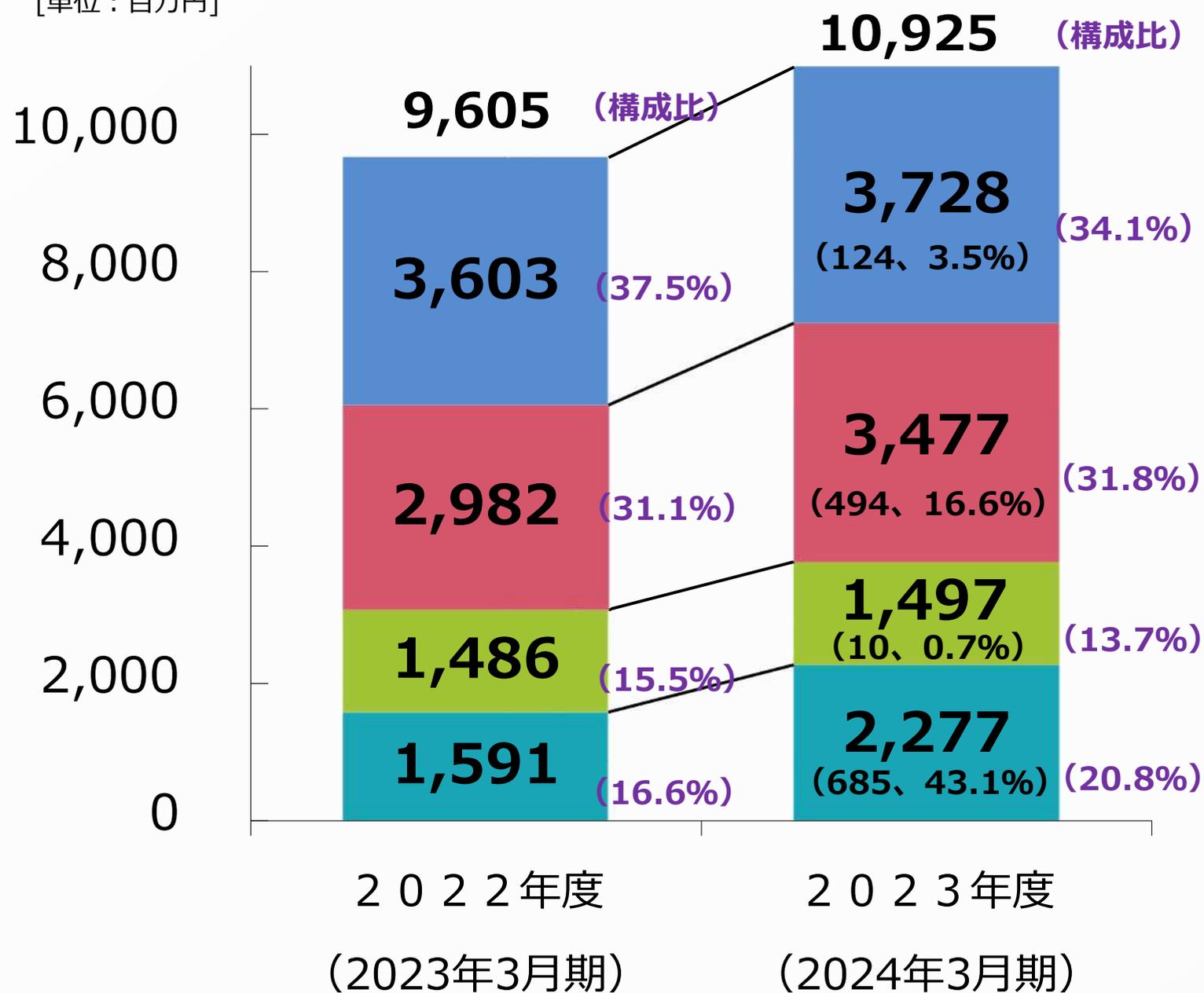
2024年3月期 決算概況



決算年度 (単位：百万円)	2022年度 (2023年3月期) (A)	2023年度 (2024年3月期) (B)	前期差異 (B-A)	増減率
売上高	9,605	10,925	1,320	13.7%
売上総利益 (利益率)	2,467 (25.7%)	2,868 (26.3%)	400	16.2%
販売管理費	1,894	2,016	122	6.4%
営業利益 (利益率)	573 (6.0%)	852 (7.8%)	278	48.6%
経常利益 (利益率)	583 (6.1%)	866 (7.9%)	282	48.4%
当期純利益 (利益率)	336 (3.5%)	580 (5.3%)	243	72.6%

連結 事業4区分別売上高の前期比

[単位：百万円]



システム運用・管理等

システム運用保守並びにデータセンター業務が増加したことにより増収

システム販売

公共のインフラサービスの受注並びに医療システムや製造業向けパッケージ販売が増加したことにより大幅に増収

ソフトウェア開発

前期から継続している大型プロジェクトが終盤となったが、基幹業務システム等の開発プロジェクトの積上げにより微増

機器等販売

顧客へのパソコンやサーバ機器並びに文教市場向けの教育用機器の販売が好調だったため大幅に増収

※セグメント間の調整額（前期：△58百万円/△0.6%、今期：△55百万円/△0.5%）は除く

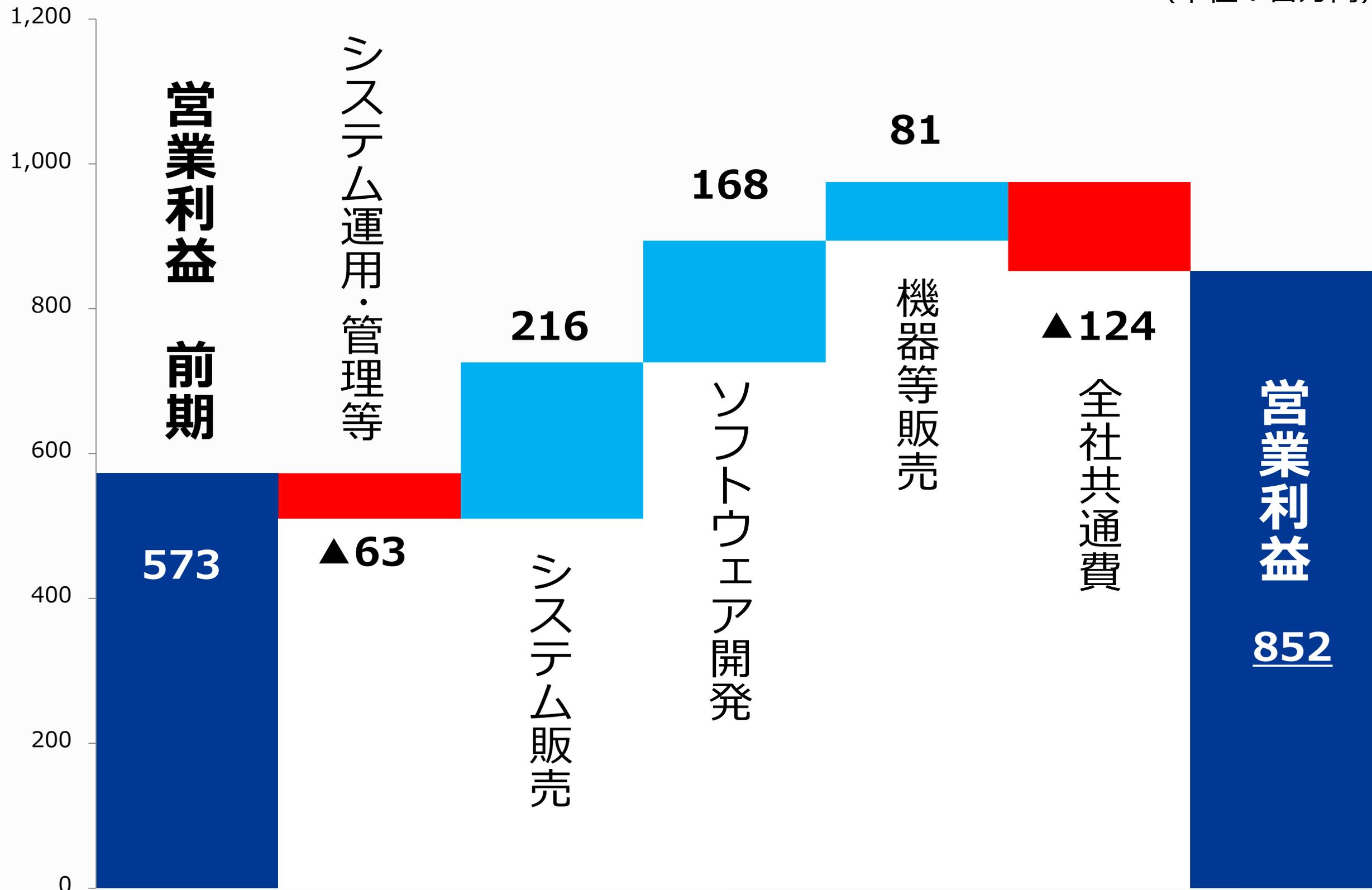
(単位：百万円)

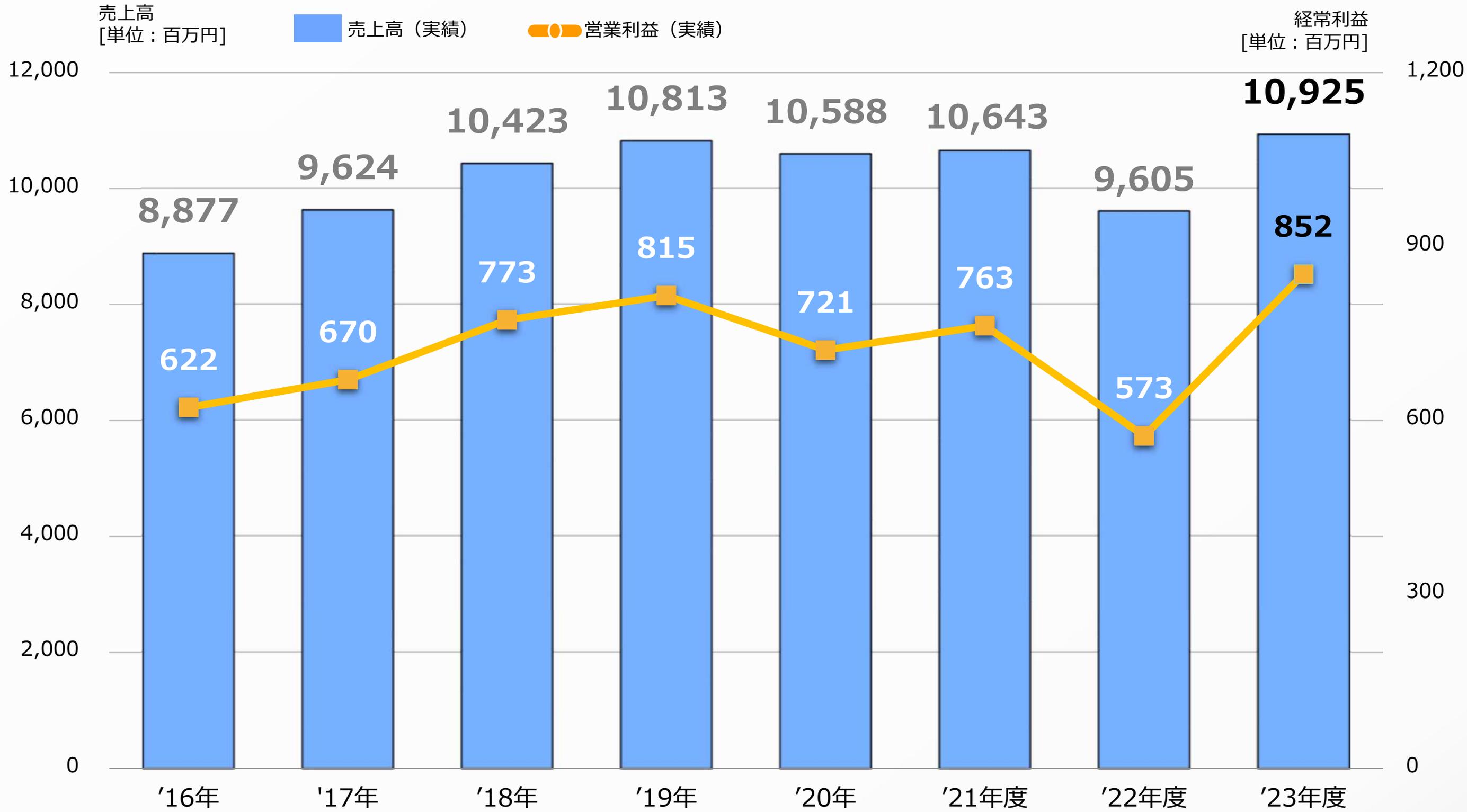
区分	2022年3月期 セグメント利益 (A)	2023年3月期 セグメント利益 (B)	前期比 (B - A)	増減率
システム運用・管理等	1,164	1,101	▲63	▲5.4%
システム販売	313	529	216	69.1%
ソフトウェア開発	167	335	168	100.5%
機器等販売	111	193	81	73.6%
全社共通費 (販売費・一般管理費)	▲1,183	▲1,308	▲124	10.5%
合計	573	852	278	48.6%

営業利益分析



(単位：百万円)





連結 貸借対照表

(単位：百万円)

資産の部		負債の部	
流動資産	6,504	流動負債	2,779
		固定負債	279
		負債合計	3,059
固定資産	2,739	純資産の部	
		純資産合計	6,185
資産合計	9,244	負債・ 純資産合計	9,244

連結 貸借対照表



(単位：百万円)

			負債の部	
流動			流動負債	2,779
			固定負債	279
			負債合計	3,059
			純資産の部	
固定資産	2,739		純資産合計	6,185
資産合計	9,244		負債・ 純資産合計	9,244

【自己資本比率】
68.9% → 66.9%
【純資産合計】
前期比9.0%増加

連結 貸借対照表

(単位：百万円)

資産の部		負債の部	
流動資産	6,504	流動負債	2,779
		固定負債	279
		負債合計	3,059
		純資産の部	
		純資産合計	6,185
資産合計	9,244	負債・純資産合計	9,244
一株当たり純資産		4,180円22銭	

【1株当たり純資産】
 前期比で 346円 41銭
 増



2025年3月期 業績予想

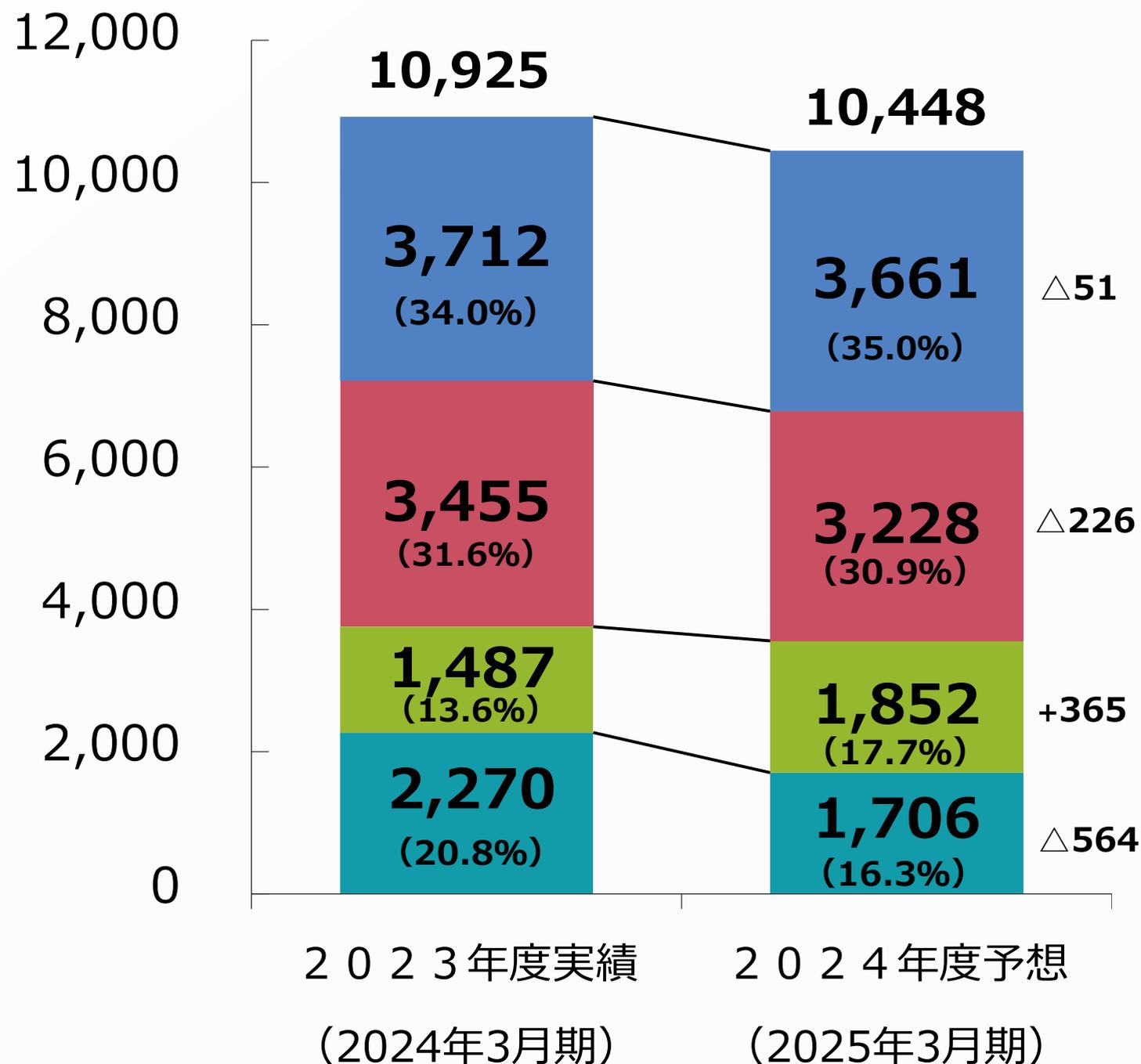


決算年度 (単位：百万円)	2023年度 (2024年3月期) 実績 (A)	2024年度 (2025年3月期) 予想 (B)	前期差異 (B-A)	増減率
売上高	10,925	10,448	△476	△4.4%
売上総利益 (利益率)	2,868 (26.3%)	2,864 (27.4%)	△3	△0.1%
販売管理費	2,016	2,190	174	8.7%
営業利益 (利益率)	852 (7.8%)	674 (6.5%)	△177	△20.9%
経常利益 (利益率)	866 (7.9%)	686 (6.6%)	△179	△20.7%
当期純利益 (利益率)	580 (5.3%)	472 (4.5%)	△107	△18.5%

連結

事業4区分別売上高の前期比

[単位：百万円]



※セグメント間の調整額を含む。

システム運用・管理等

引き続き顧客へのシステム運用支援および新規サービスの展開を進める見通し

システム販売

2023年度計上した大規模案件完了の反動を受け、減収の見込みであるが、AI関連、IoT関連、セキュリティビジネス関連の展開を進める。

ソフトウェア開発

大型顧客へのERPシステム導入や、受注済みの基幹業務システムの受託開発を見込み増収。

機器等販売

2023年度の予算外売上増の反動を受けて減収の見込みであるが、引き続き情報化機器やグループウェア等のソフトウェアの拡販を進める。



Pacific Systems
パシフィックシステム株式会社

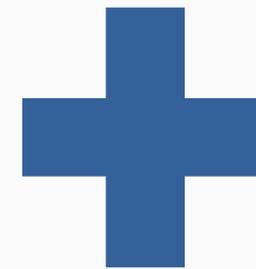
長期ビジョンと 26中期経営計画の概要



長期的な成長と課題解決のために長期ビジョンを策定

目標全体像

- ◆既存の事業領域の発展・展開を図りながら新たな事業領域へ踏み出す
- ◆多様な顧客に付加価値の高い独自のITソリューションを提供する
- ◆会社及び社員がマインドと行動を変え、技術と発想力を武器に未開拓分野へ挑戦する
- ◆主体的で持続可能な成長の実現と社会的課題の解決に積極的に貢献する



変革ポイント





One Step Forward, One Step Beyond.

一歩先へ、そして未来へ羽ばたこう！！

パシフィックシステムグループはこれからの10年
大きく変化してゆく社会環境や課題にひとつずつ 一歩一歩、向き合い対峙して
いくために
そして その先の未来へ羽ばたくために
当社グループが取り組む変革によって
実現したい「ありたい姿」を長期ビジョンとして描きました

「One Step Beyond」とは

限界や通常の範囲を越えて進むこと : 「One Step Beyond」は、現在の制約や制限を乗り越え、新たな領域や可能性に進むことを意味します。冒険心や探求心を持ち、新たな挑戦や経験を求める姿勢を表現しています。

思考や理解の範囲を超えること : 「One Step Beyond」は、一般的に認識されている知識や理解の域を超えて、深く探求することを意味します。この表現は、哲学的な思考や学術的な研究において、既存の枠組みを超えて新たな洞察や理論を模索する姿勢を表現しています。

リスクを冒して挑むこと : 「One Step Beyond」は、安全や確実性の枠組みを越えて、ある行動や決断をすることを意味します。この表現は、困難や危険を冒して新たなチャンスや成果を追求する勇気や決断力を表現しています。

ビジョン実現による「ありたい姿」

顧客層の拡大

- 新規顧客・新市場開拓
- 既存顧客との取引深耕
- 新事業創出・新商品展開

イノベーション 共創組織

- 社内協力体制の構築、ノウハウ・技術の共有
- 他社とのアライアンス・共同開発

相乗作用

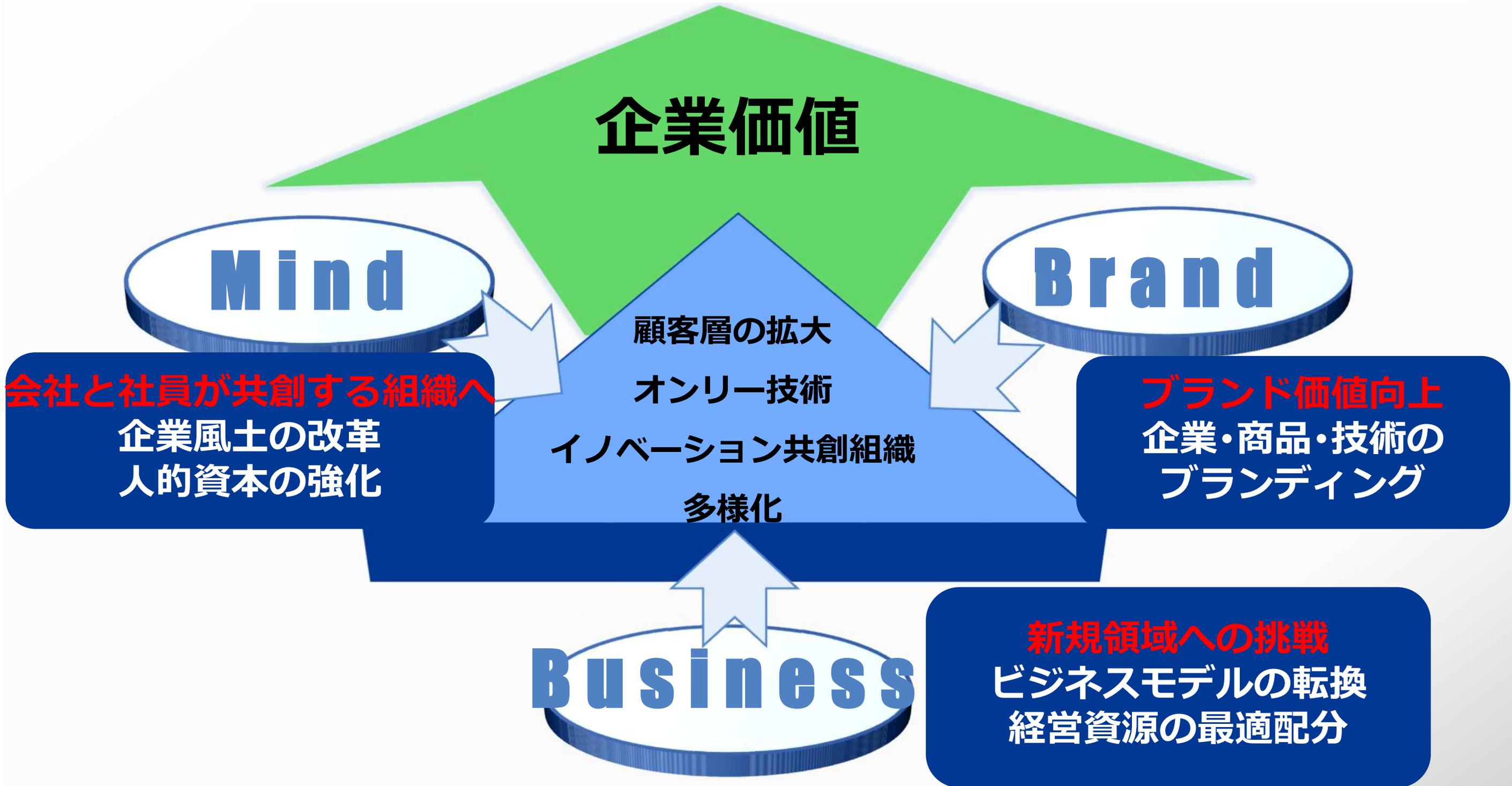
オンリー技術

- 独自技術の探求
- 他社技術との融合
- 独自商品・獲得技術の権利化

多様化

- 多様な人材の活躍
- 多様な働き方への対応
- サステナビリティへの貢献

<変革> 3つの方向性



注力する分野

画像 センシング

- ◆物流、医療・ヘルスケア、検査機向けパッケージ化と横展開
- ◆協業関係拡張等による販路拡大
- ◆AI応用技術のトップリーダー

ソリューション 受託開発

- ◆時代変化に即応、顧客マインドへ適合するソリューション提案型アプローチ
- ◆DXソリューション + AI + ユーザーエクスペリエンス

AI コンサル

- ◆AI研究強化応用
- ◆AI技術コンサルタントの事業化
- ◆大学・研究機関・企業との共同研究
- ◆特許出願

コンサル

- ◆DXソリューションコンサル強化

オリジナル パッケージ

- ◆自社パッケージのリニューアル及び、拡充 (DX+AI)
- ◆業務コンサルタント強化
- ◆農業、介護、不動産、観光など多角化
- ◆展示会への出展等PRの拡充

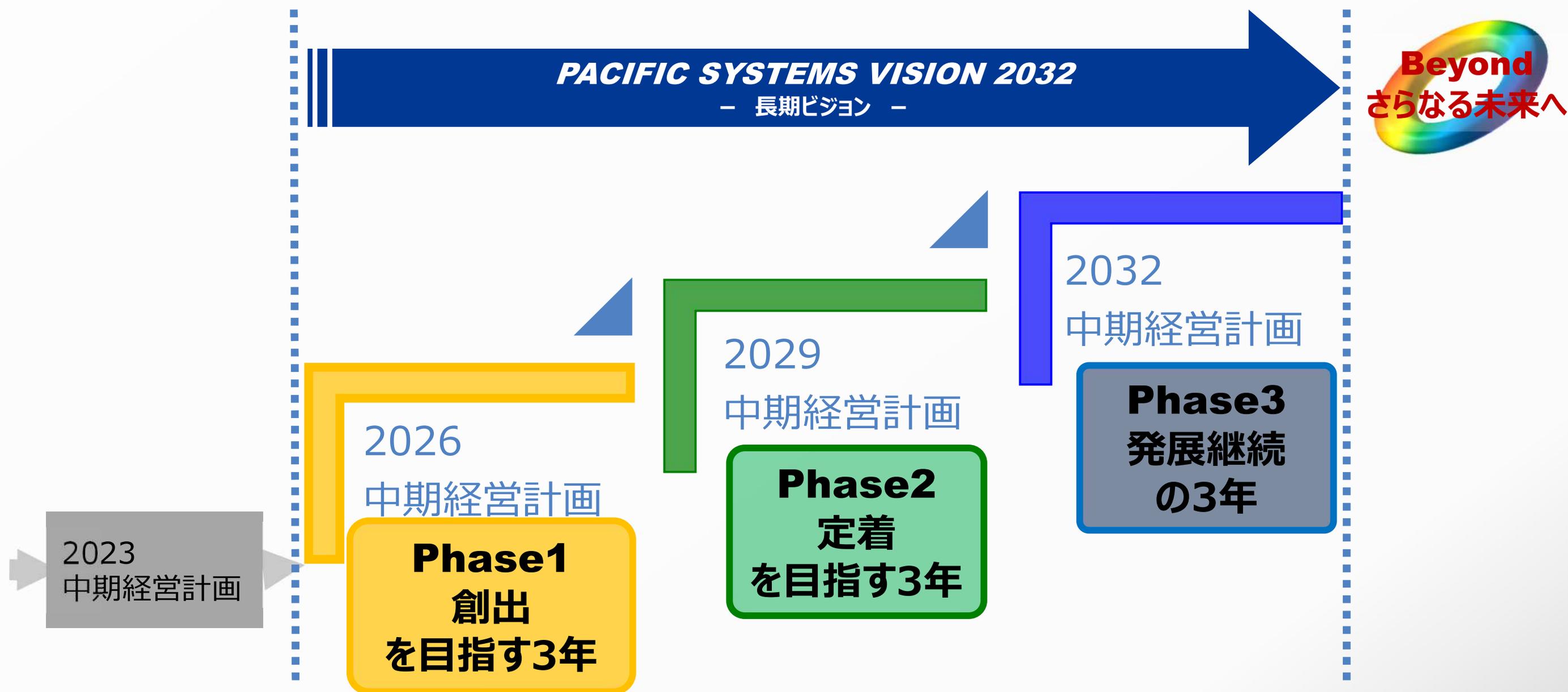
ヘルプ デスク

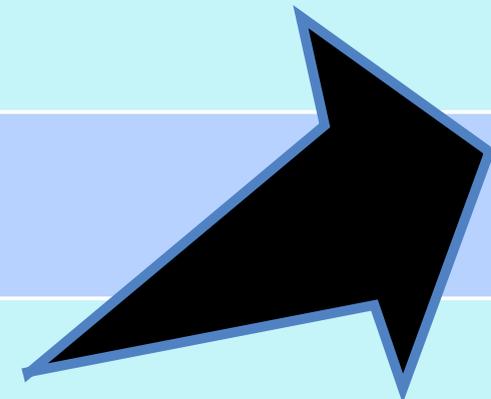
- ◆クラウドITサポート
- ◆ヘルプデスク + AI
- ◆顧客IT部門サポート(シェアードサービス) (PC問い合わせ対応、情報化支援)

セキュリティ

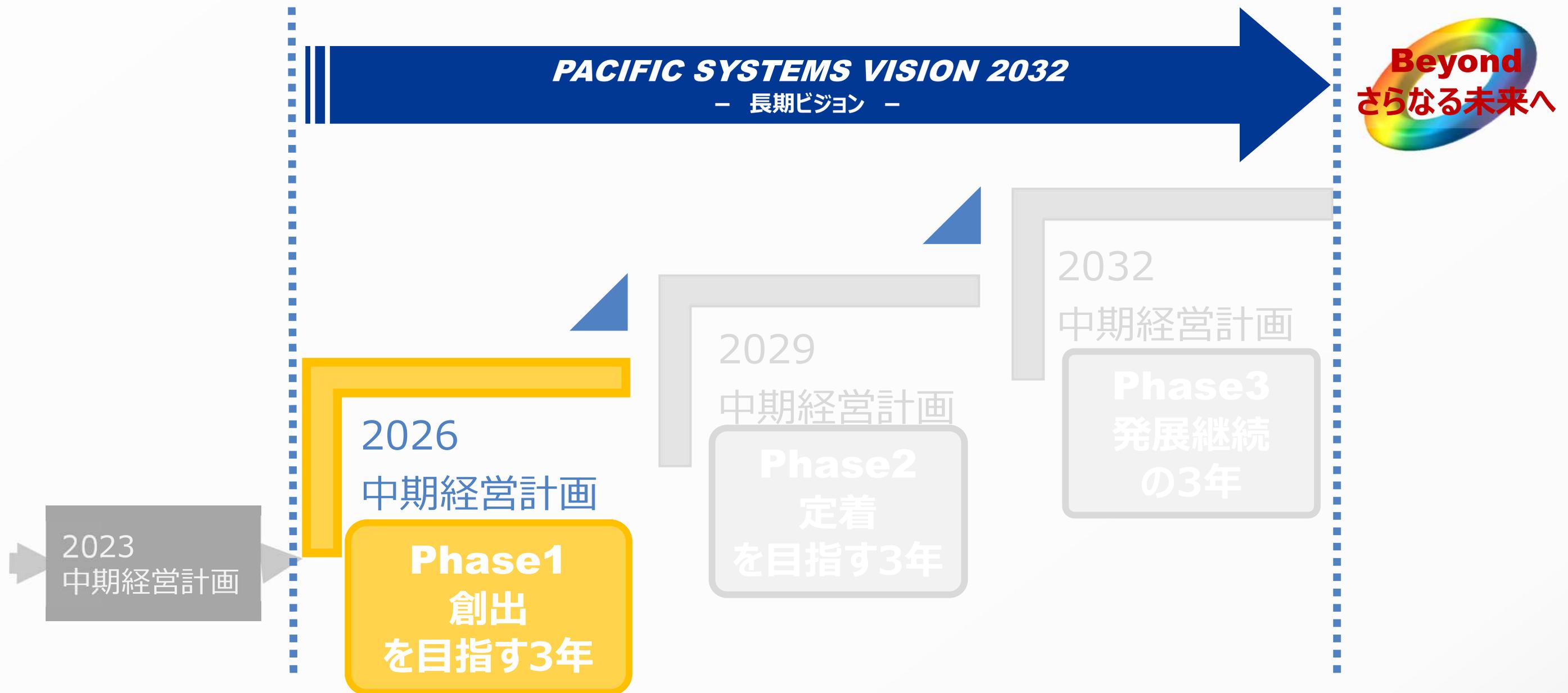
- ◆セキュリティ事業立ち上げ
- ◆PSCサイバーセキュリティ研究所の設立
- ◆セキュリティ情報発信
- ◆セキュリティツール開発
- ◆セキュリティ + AI 技術強化

<計画期間>



		PACIFIC SYSTEMS VISION 2032		
	23中計最終年度 2023年度	Phase 1 (26中計) 2024年度-2026年度	Phase 2 (29中計) 2027年度-2029年度	Phase 3 (32中計) 2030年度-2032年
売上高	109億円 (PSC 77億円 SB 32億円)	120億円 (PSC 90億円 SB 30億円)		<div style="border: 2px solid black; border-radius: 50%; padding: 10px; text-align: center;"> 売上高目標 160億円~ 200億円 </div>
営業利益	8.5億円 (PSC 5.3億円 SB3.1億円)	9.6億円 (PSC 7.2億円 SB2.4億円)		
営業利益率	7.8%	8.0%		
ROE	9.8%	9.0%		10.0%
PBR	0.93倍	1.0倍超		
配当性向	34.2%	30.0~50.0%		

2032長期ビジョンをより具体化するため、2024年度からの2032年度までに3期の中期経営計画を策定します。26中期経営計画はその第1フェーズとなります。



<経営ビジョン>

お客様と社会に貢献するサービス・技術を提供し続け、企業価値を高めていく

- ◎ お客様と社会に貢献して仕事に対して誇り・喜びを持つ・持たせる
- ◎ そのためにサービス・技術の向上
- ◎ その結果としての企業価値向上

①強みを知り、強化する

②既存技術の展開

- ・応用力で分野を拡大 他社との連携 利益へ繋げる戦略

③新規技術の獲得

④営業力の強化

- ・全社営業融合 総合力を発揮
- ・営業手法改革 (DXだけでなくあらゆる手法を研究開拓)

⑤ 利益率の向上

- ・ 人工あたりの粗利を指標に

⑥ 開発作業の変革

- ・ 開発手法 開発標準・ルール徹底のためのマネージメント
- ・ 見積作業の定型化を推進
- ・ 開発の効率化、AIを積極的に活用
- ・ 顧客とのコミュニケーション、プロジェクト内コミュニケーション
- ・ アジャイル手法の確立

⑦ 安全衛生の徹底と社員の健康度向上

⑧ リスク管理の強化

- ・ 社員一人一人がリスクを認識できるように
- ・ 組織として認識と対応を共有

⑨ 成長・教育・やり甲斐の充実化

- ・ 経験力、成長、地位向上を実感できる仕組み
- ・ 「仕事は楽しい」と思える環境

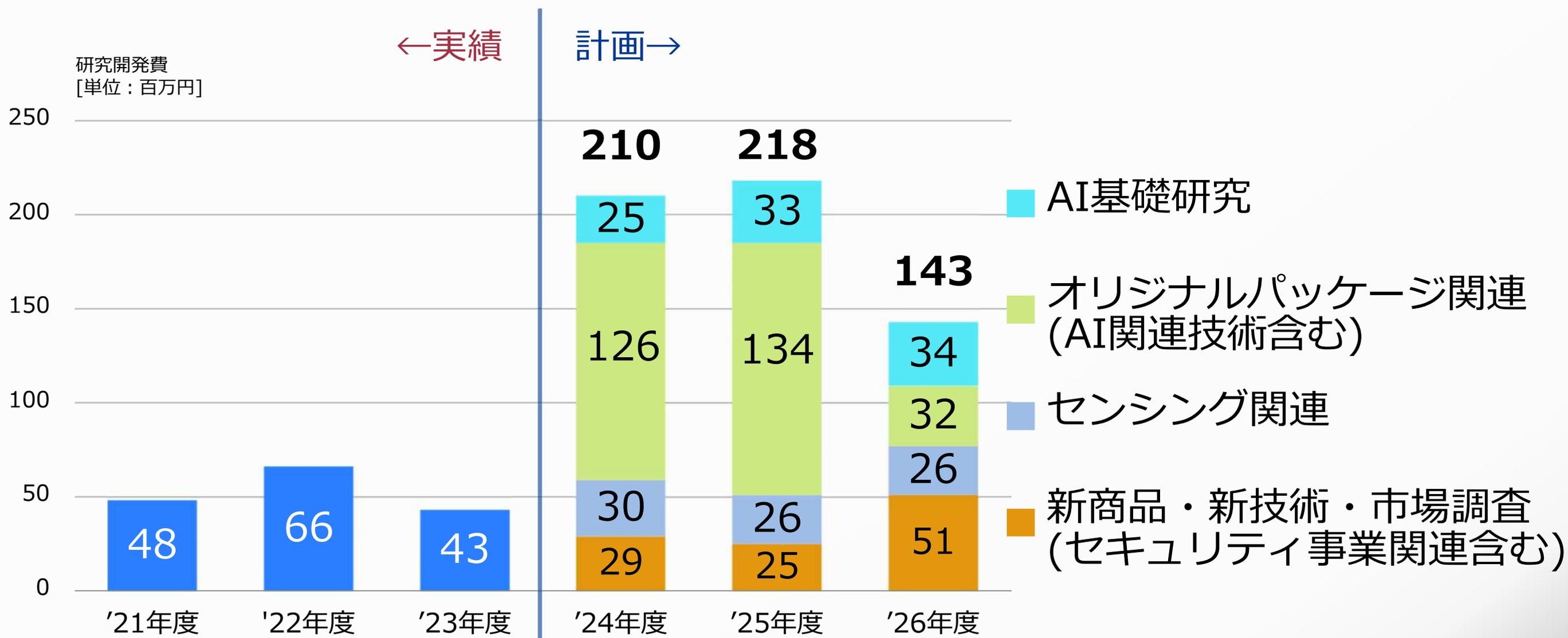
⑩ DXの推進

- ・ デジタル技術の進歩を常に把握
- ・ デジタル技術の活用を通して、顧客と当社グループの企業価値を高める

研究開発

26中期経営計画における研究開発投資は、長期ビジョンを実現するため568百万円へ拡大（前中計比257.4%増）し、全ての研究テーマにAI等最新技術を組み込んでいく。

連結 研究開発費実績と26中計



システム運用・管理等

- データセンタ事業の推進
- 10年後を見据えた運用保守業務の全社最適化

システム販売

- **センシング事業**
 新しいビジネス形態への取り組み、汎用パッケージの開発
 AIに関する調査検証、AIソリューションの事業化
 AIコンサルタント、PR強化・知名度向上
- **生コンクリート業界向け事業**
 次世代製品開発による競争力強化、大型案件の確実な受注
 新たな事業の創出、周辺ビジネスへ参入
- **セキュリティビジネスの拡大**
 2024年4月「セキュリティ事業準備室」新設
 CSIRT・PSCサイバーセキュリティ研究所の設立
 セキュリティサービスの拡充、販売促進
- **主要な商品及び案件の促進**
 スマートファクトリーの拡大
 独自開発のオリジナルパッケージの販売拡大

ソフトウェア開発

- **主要顧客への販売拡大**
再構築案件への取り組み
- **DX推進によるソリューションの提供**
AI、RPAを活用したソリューションの企画、開発
- **ERP及びパッケージ事業の拡張**
Fit率重視、クラウドサービス導入展開
- **コミュニケーションツールの販売拡大**
当社制作テンプレートの商材化

西日本支社関連

- **主要顧客向け基幹システム再構築の完遂、事業領域拡大**
- **顧客層の拡大**
Telegno-sys（生産管理）などパッケージ商品の外部への拡販
画像処理技術、ドローン設備点検、セキュリティなど展開

システムベース社関連

- **収益拡大への取り組み**
営業エリアの拡大、大型案件への取り組み、新商材発掘
- **DXへの取り組み**
Telegno-sys（生産管理）にAI・IoTの活用、社内DXの推進
- **社内環境の改善、採用活動強化**

連結売上高

120億円

連結営業利益

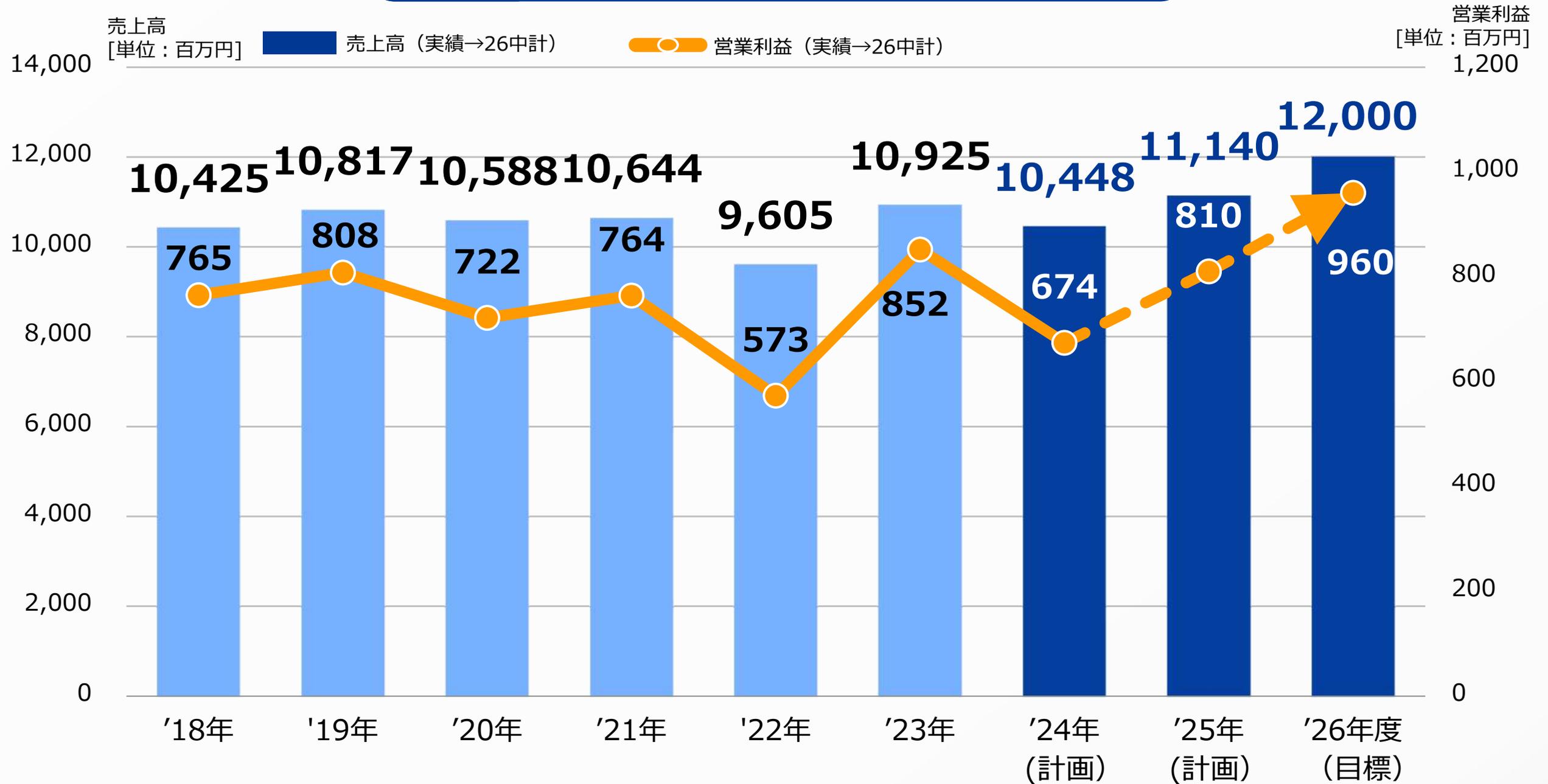
9.6億円

一株当たり配当

140円

を目指す

連結 売上高・営業利益の実績と26中計





トピックス (当社の画像・AIへの取り組み年表)



<主なAI技術・AIに関する出来事>

<当社の画像・AIへの取組み>

AI活用製品 画像製品等 研究開発等

1980年	第二次人工知能ブーム	◆知識ベース ◆音声認識
1985年		・誤差逆伝播法の発表('86)
1990年	第三次人工知能	◆データマイニング ◆オントロジー ◆統計的自然言語処理
2005年		◆ビッグデータ ◆ディープラーニング ・ディープラーニングの提唱('06)
2010年		◆DNN(ディープニューラルネットワーク) ・IBMワトソンがクイズ番組で人間に勝利する('11)

当社設立

画像解析システムビジネス開始

JASDAQ(スタンダード)へ上場

- (製品) SILTAC (多入力・多出力のプロセスを時系列解析、予測・制御システムシミュレーション)
- AIコンクリートひび割れ診断支援システム (エキスパートシステム)
- 画像解析外観検査装置
- (製品) 人工知能応用基本ソフト「ESPARON」
- (製品) 統合制御システム「SOIDECS」
- 「本因坊」「国際コンピュータ囲碁大会」日本大会で優勝
- (製品) 生コンスランプコントロール (エキスパートシステム)
- 硝子、液晶カラーフィルター 色ムラ検査システム
- 大阪大学大学院医学系研究科機能画像診断学研究部と共同研究 GA(遺伝的アルゴリズム)に関する論文発表
- TQ-PS(セメント品質予測システム)
- 電気通信大学によるAIに関する技術指導 (以後、現在まで継続)
- 全周囲果実外観センサーシステム

<主なAI技術・AIに関する出来事>

<当社の画像・AIへの取組み>

AI活用製品

画像製品等

研究開発等

2012年

- ◆**CNN**(畳み込みニューラルネットワーク)
 - ・ディープラーニング技術を画像認識コンテストに適用('12)
 - ・画像認識の向上で画像データから「猫」を特定できるようになる('12)

2013年

- ◆**GAN**(敵対的生成ネットワーク)

2017年

- ◆**Transformer**
(大規模自然言語モデルのベース技術)
 - ・「アルファ碁」(コンピュータ囲碁プログラム)がプロに初勝利('18)

第三次人工知能ブーム

電気通信大学 学会発表
「マルチモーダル情報の取得と概念・語意獲得を長期的に人と協調しながら行うロボットプラットフォーム」(共同研究)

電気通信大学の技術指導により「DeepLearning」に関する調査開始

物流倉庫へのロボットピッキングシステム

段ボール自動開梱・分別ロボットシステム

(製品) 円筒形状表面検査装置

コンクリート配合設計支援検証(企業共同研究)

機械学習オープンソース「Watoson」「tensorflow」研究開始

(製品) デパレタイズビジョンシステム

<主なAI技術・AIに関する出来事>

<当社の画像・AIへの取組み>

AI活用製品 画像製品等 研究開発等

2018年

2019年

2020年

2021年

第三次人工知能ブーム

◆LLM(大規模言語モデル)

- ・BERT(Google)
 - ・GPT(OpenAI)
- 言語モデルの2台巨頭

・Transformerを画像生成に応用したモデル「DALL・E」をOpenAIが公開('21)

- 設備異常監視システム
- コンクリート流動性予測研究(企業共同研究)
- 外観検査システムにAI応用開始(欠陥検出)
- (製品) PARCS Suite®WATCHER
- Deep Learningによるコンクリート骨材の粒径判別技術に関する基礎的研究 2019年土木学会(企業間連携)
- Deep Learningによるコンクリート骨材の岩種判別技術に関する基礎的研究 2019年土木学会(企業間連携)
- AIシート外観検査
- Deep Learningによるコンクリート骨材の粒度分布推定に関する基礎的研究 2020年土木学会(企業間連携)
- 埼玉大学による技術指導及び技術発表会(以後、現在まで継続)
- 砕石色判別システム

＜主なAI技術・AIに関する出来事＞

- ・ Googleが「Bard」を公開 ('23)
- ・ OpenAIが「GPT-4」を公開 ('23)

第四次?人工知能ブーム(生成AIブーム)

2023年

2024年

＜当社の画像・AIへの取組み＞

AI活用製品 画像製品等 研究開発等

(製品) PreSlump AI®



予測スランプ値履歴参照
実測スランプ値の入力



操作端末
(タブレットPC)

予測
スランプ値



既存監視モニタ

(製品) AIロボットピッキング

(製品) AI円筒形外観検査装置

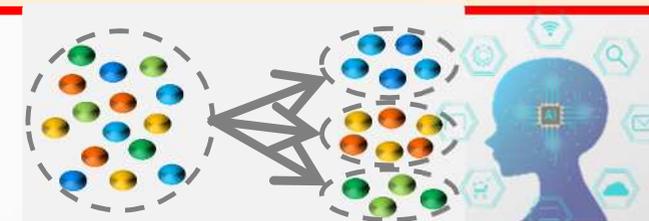


(製品) クレーンワイヤー検査装置 (熊谷組共同開発) ※特許出願中



PreSlump AI® NETIS(国土交通省 新技術情報提供システム)に登録

(製品) 特徴量予測分析システム (仮称)



長期ビジョン
PACIFIC
VISION 2032
スタート



<免責事項>

本開示資料に記載されている将来の計画等に関する内容につきましては、当社が本資料の発表日現在において入手可能な情報と、合理的であると判断する一定の前提に基づき判断した予想であり、リスクや不確定要素を含んでいます。

従いまして、記載されている将来の計画数値、施策の実現を当社として確約あるいは保証するものではありません。実際の業績は、今後様々な要因によって大きく異なる結果となる可能性があります。